

講演の要旨

【世界では、今、何が起きているか】

(発展途上国の活発な動き)

- ・ヨーロッパで普及したLRTだが、台湾でも運行が開始された。
- ・アジア各国では新しい都市開発が多数進んでおり、立派なプレゼンテーションルームなどを用意して街のPRに積極的に努めている

(先進諸国の新たな関心事)

- ・欧州は環境意識が高く、グリーンで覆われたような集合住宅も登場している。
- ・また、最近注目されているのがインクルーシブという概念(バリアフリー、ユニバーサルデザインの次の言葉として近年注目されている。「全てを包摂して」の意味。)日本でも2020のオリンピック、パラリンピックに向けて必要とされていくのではないかと考えられている。

(情報社会の急速な進展)

- ・現在IoT(すべてのものがネットワークにつながる状態)時代に突入し、個人からも容易に世界中に配信することが可能となった。
- (例:富山のスターバックスは「世界一きれいなスターバックス」とネットで紹介され、誰も本当に世界一かどうかは確認できないが数多くの観光客が訪れた。)
- ・日本は他国と比べWiFiの環境が整っていないなど世界の動きに後れをとっていると考えられており2020年に向かって整備が必要である。

【今後の予測】

1.人口増加とICTについて

- ・2050年においても、アジアの人口シェアは世界の半分以上を占めるだろうと言われているが、今後アジアの重心はインドに移ることが予想されている。
- ・現在は交通条件に依存しないICTに注目が集まり多くの企業が研究している一方、情報の信憑性を見極める方法や企業意思決定などの重要な場面等では、Face to Faceの重要性も高まっている。

2.自動車について

- ・世界の車保有台数は180台/1000人、アメリカは800台/1000人、日本は600台/1000人、インドは20台/1000人、中国は100台/1000人であり、インドや中国が経済成長を遂げれば、まだまだ車社会は続くと考えられる。
- ・自動運転の実用化に向けて、世界各地で研究や実験が行われており、それにより事故は減ると考えられる。

3.人口減少の国々について

- ・日本だけでなく世界全体の中には高齢化が進んでいる国も多い。実は、人口が減少すると予測されている国も少なくない。
- ・歩くことが健康や、社会とのつながりを生むため、今後は、歩いて暮らせるまちづくりを真剣に考える必要がある。

【今、日本で何が起きているのか。】

- ・東京都心では、2020年を目指し動いており、東京駅周辺や、渋谷、新宿駅周辺の改造を行っている。横浜周辺はエキサイト22という計画で動いている。1つでも開発等が行われると、その周りも連鎖的に再開発が進んでくる。
- ・リニアができることにより、羽田空港に影響が出る。羽田空港利用者の2割ほどがリニアに移動するため、空き枠を使って羽田空港の国際化はますます進む。従って、やがて品川が化けることとなる。
- ・鉄道は今後も増えていくが、各鉄道事業者の利用者に差が出ている。これからは定期券外の伸びが重要である。
- ・これまでの鉄道は大量性・速達性を求められていたが、今後は楽に楽しく移動することが求められていると考えられる。

【世界の交通の動向】

- ・世界中では新しい公共交通機関ができています。道路空間を再配分して、車道を減少させ、歩行者空間を充実した事例もある。自転車の普及も著しく、自転車専用の橋やトンネルの整備も行われている。シェアサイクルの参入もある。
- ・アメリカは車社会で、都心部は駐車場が多いが、“人のまち”への意識も高まっている。

【まちづくりの考え方】

- ・まちにとって「人」は重要な存在である。人が人を呼んでくる。今後は、まず人にやさしいまちづくりが求められている。
- ・また、cool deep holy が重要。ちょっとかっこいい、やってみると奥が深い。こういったものを目指すべき。まず触れてもらい、交流することが大事。
- ・オリパラに来てもらった際に、日本の奥深さに気付いてもらいたい。
- ・それぞれの地域で「光るもの」をつくることが重要である。新しいものにチャレンジし、交流し、世界に発信する。それを見た人を引きつけることができれば、その場所に足を運んでくれることとなる。
- ・橋本駅エリアは相模川沿いの地域を含めて質の高い企業、大学等があるため、これをどう繋ぎあわせ、世界から人を呼ぶか。そういったことが問われている。

【まとめ】

- ・我々も今から50年先に何を残せるのかという事を真剣に考えるべき。
- ・「どうなる首都圏」ではなく、「どうする首都圏」であり、我々自身が今後に向かって考えていかなければいけない、そういう事である。
- ・将来に向けての、デザイン設計を皆さんと一緒にやっていければと思う。
- ・この地域はまだまだ変わる、いい方向に変えたいと思う。
是非一緒に変えてきたいと思う。